

# 総会の記

49年度総会実行委員長

52回 津野正平



## 年頭ごあいさつ

会長 鍵富清一郎



発行所 青山同窓会  
新潟市関屋下川原町二  
新潟高校内  
印刷所 オリオン印刷機

あけましておめでとうございます。昨年はなかなか大変な年でしたが、ぜひ今年こそ、早く、よい年になってもらいたいものと、大きな期待をもって、新年を迎えました。昭和も五十年となり、昭和生れが、世の中の大半を占めるようになりましたが、明治生れも、大正生れも、大いに元気に長生きして、昭和生れとともに仲良く、楽しく同窓会、母校の発展に力を合せてゆきたいものです。会員の皆さんの益々のご発展と、ご健康をお祈りいたします。

昭和四十九年度の総会は、幸先よく晴天に恵まれて、七月十四日予定通り開催されました。第16回、羽下修三氏から、今春卒業の第八二回生までの広範囲にわたって、親・子・孫の三代祝賀会のように続々とつめかけて、日本海側随一を誇るさしものキャパレー、香港も、予備席が出せない程の大盛況であったことは、青山同窓会が裾広がり、ますます発展してゆく姿をそのままに現わしているが如くであり、心から喜びに堪えないところであります。年を追うごとに発展する総会をさらにのり多いものにする為

は、各期の親和と団結が大切であることは勿論であります。時期を八月のお盆、新潟祭りなど、ふるさとへ帰省する機会を捉えることなどを研究する余地がある。一と、実行委員会などで話題となっておりますので、五十年の総会には、これが反響されることであるまい。年々実行委員会が若返ってゆくことは実に嬉しいことでもあります。青陵健児の活躍の姿が、総会にそのまま演出されるように切望してやみません。事務局の皆様、役員の皆様の御苦勞、御健闘に心から謝意を呈し



49年度総会スナップ(1)



## その翼を信じよ!!

東京青山同窓会

総会報告

「同窓会をして単なる郷愁をなつかしむ老人クラブの如きものとして停滞せしめぬ努力を致します。お互いに母校を同じくする我等は、老・壮・青の三結合によって、社会的、経済的、文化的向上を図りつつ青山同窓会の発展の為努力しようではありませんか。……」山崎重三郎幹事長(34回)の熱気のごもった開会の言葉は、東京八重州口大丸デパート・ルビー・ホールの厚い窓ガラスも破れんとするかのよう、若き同窓生もまた活躍する東京の夜空に力強くこたえました。昭和四十九年十一月十二日の夜、石黒久(73回)「エベレスト初登頂の成果を日本にもたらした同窓生(当日都合により欠席)、平尾俊彦(79回)「東京大学野球部四番打者として活躍」両君の激励会も兼ねた東京総会は、あの広い会場にも拘らず、こんな多人数では「場所の選択を誤った」という声も数多くきかれるなかで、新旧会員心暖まる談笑の場を心ゆくまで提供した。閉会宣言を何度延ばされたであろう。各期毎のいや、各期合い入り混じつ

### 新潟の皆さんも

「ご出席下さい」

東京での青山同窓会は例年、事務局へご招待があり、新潟より、必ず出席しております。会員の皆様におかれましても、東京等は時間的にも近くなりましたことですので、ぜひ多数のご出席をとお誘い申し上げます。お互いの交歓の場を大切にしたいものです。日時等につきましては母校内事務局、岩田さんにお問い合わせ下さいれば、ご返事できるようになっております。

またともに、会員各位の御健闘にて、総会の記といたします。と、御清栄をお祈り申し上げます

年頭随想

昭和半世紀

30回 渡辺浩太郎 新潟市長



転でしたが、一九七五年を迎えたとき、昭和年代は半世紀を数えてきました。

これから二十一世紀に向う後半は、どのような日本史が展開されることでしょうか。少くとも変革を続けながら、新しいページが刻まれてゆくものと思われま

鎖国二百年の幕政が崩れた瞬間輝かしい維新が生まれました。明治以来三代、一世紀近くの体制化した国家権力は自ら招いた戦禍の中で、あえなく潰えました。まことにめまぐるしい歴史の回



45回 川上喜八郎

ごあいさつ

新年おめでとうございます。私この四月の市長選に社会、共産、公明三党をはじめ多くの団体などの推せんをうけ立候補を予定しています。四期十六年もの実績をもつ大先輩の渡辺さんを相手にするわけで、私情としてはしのびないものがありますが、しかし、これも

市政という地方自治体も財政危機に陥り、一刻も早い立て直しを必要とされております。こうした諸事情を克服、解消する時が「いま」だと私は思います。国との関係において、自治体は課せられていく幾つかの問題点で正すものは正し、自治体、地域住民の真の幸せをつかむための撰択をしなければなりません。それは現在の体制、機構の変革につながるかも知れませんが、新しい歴史のページとはそれを意味するものです。昭和半世紀―過去を反省し、来るべきためには意欲的な前進があるのみだと、私は信じております。「生れ、育ち、住んでよかったふるさと」新潟をつくるため、そして歴史の歯車の忠実な使者として、私は歩み続けて参ります。

地球上で人口爆発の時代がやってくる、とセンセーショナルな表現が、昨年来随所で叫ばれてきました。それは三億の人口がやがて今世紀末には七〇億に達し、食糧もエネルギー資源も間に合わない時代がやってくるとの認識からであります。さらに、環境・教育・医療・雇傭等の問題が人口問題と直接からみ合い、いくつもの国際会議の舞台を中心に議論を呼んでいます。この議論は遠い国のことのようにも思いますが、実は当面するわが国の内政問題と連動しており、それだけに問題は大きく深いものがあります。食糧もエネルギー資源も戦略物資として考えられている国があり、夫々の国の強弱を問わず、新しい国際秩序が樹立されなければ、国際的不安はつた一方であり、国内の動揺もまた

年頭の

ご挨拶

59回 佐藤 隆

参議員議員

職員にまで及んで来て、市民の共通した強い不満となっていることです。私は日本海沿岸の雄都新潟を、各層の知恵を集め清新はつらつとした人間都市として創造するため努力します。各位のご理解とご援助をいただきたいと思ひます。

然りでありませぬ。この事態を私どもは危機という二字ですなにおとらえ、自由体制を革新する、新しい政治にとりくみ始めました。昨年冬新総裁・総理のもとお互いが国民から信頼される政治姿勢に徹し、インフレ・物価・不況対策を始め、具体的な政策を進める決意をいたしました。いままでの自民党でない自民党として、また一党員としての反省と自覚は如何なものか、これからの私どもの行動を評価いただきたいと存じます。まさに、新しい年をむかえ、誓いあらたなものがあります。特に今年には私の当り年、どんなにきびしい環境の中でも、初心忘れず、常にベストを尽くし、国民的立場での主張を続けたいと存じます。この年も相変らぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

編集部より

\*あけましておめでとうございます。昨年は大変きびしい経済環境の中、それぞれなりに苦難の一年であったと思われま。統一地方選も近すき、同窓の諸兄も様々な政治の場への出陣がうわさされております。私共市民の立場からは政治に期待するところ大なるものがあります。ぜひ各位の健闘を祈りたいと思ひます。 \*今年の新年号を、こちらになってお気づきのように入会費納入者のお名前が二頁にもわたってあります。年々納入者が増えくたさることは大変うれしく、これも、各期幹事の方々の努力と会員の暖かい熱意によるものと感謝申し上げます。同窓会費制度を未知の方には今後ともPR下さる事をお願いします。 \*前々号でお知らせしたエベレスト登頂の石黒久君が、昨秋、新潟日報、文化賞を受賞されました。彼の貴重な体験と、その後の県内各高校等に於ける報告会での功を讃えられたものと聞いております。青陵健児の多方面への活躍をさらに期待しております。 \*今号は少し同期会の報告がすくなくさびしかったようです。各期とも開催の折には事務局にお知らせを願いたいと思ひます。文を書けるのは大変ですが、そんな時は参加者の全員の写真だけでも、とお待ちして居ります。各クラブのOB会等についての近況も今後お

お知らせしたいので、ニュースを流して下さい。 \*総会スナップの中で、二十九期以前のご出席者のお元氣なお顔が見られます。そういえば、昔、高校を卒業して、同窓会の入会式で今もお元氣な鎌倉会長が、同窓会は長生きするといひもんですよ！といわれた事を思い出しました。 皆が皆長生きすると、最前列の席ばかりとなって設営が大変ですが、お互いに長生きするよう、がんばりましょう。 \*同窓会は卒業後二十年もたないといふと、つまらない、などとの若い声も一部聞かれますが、それは最初のうただけで、一度思いきって出席して見ると結構楽しいもので、色々のニュースが入って来たり、先輩方との交流があったりいいもんですよ。若い方は同期会などときめこま、総会への若い方々の積極的な参加を願ひます。 \*故人となられた齋藤 名幹事長とその才能を、大変懐かしく思い出している昨今です。県高は全国に雄飛して活躍している学校だから母校の地にある者は全国同窓の諸兄に母校のようす、新潟の街のうつりかわり、そして同窓の近況を知らしめる責務があるとの熱意で記事を集め、編集しておられたものです。今そのあとをうけてみて、己の才の足らざるをなげくのみであります。願わくば、同窓諸兄の編集へのご参加と、ご注文によるすばらしい紙面づくりをもつて熱意に応えたいものです。(M)

恩師

原田三二先生をお迎えして

38回 近藤 圓

どのような因縁からか思い出せないが、山口市にお住まいの原田先生と文通の始まったのは昭和三八年の山口国体後からであった。私が新潟県の選手監督かなにかで山口へ行ったことがきっかけだったらしい。先生は同窓会で調べてもらったところによると、大正一三年八月から昭和三年六月まで新中英語の先生をやられた。その間大正一四年四月からは寄宿舎の舎監をされていたので、二年まで寄宿生活をした私など、特にお世話になったり、御心配をおかけした文字通り先生の教え子の末席を汚していたものであった。

昨年の梅雨の頃であったが、私は紙紙のはしに二度新潟の川開きでも見においでになりませんかと書いた。先生は御出身が山口県であり、新中を辞任されて山口中学に転動されて以来四十五、六年、遂に一度も新潟の地を踏まれておられないので、この私のお誘いがいわゆる寝た子を起すともいえるのか、先生の望郷ならぬ望郷の思いに火をつけたらしい。おとなしく身をおさめているのが、身の安が、御案内に接すると、若氣かすかに存していたものか、ウズウズ

で、而も新潟思えば眼底に映するのには半世紀昔の人、事物、今更お目見ても汗顔ものとは思いますが、昨晩一夜考えたり、妻に相談したりでようやくなるべく早く……という御返事をいただいたのであら。先生は同窓会で調べてもらったところによると、大正一三年八月から昭和三年六月まで新中英語の先生をやられた。その間大正一四年四月からは寄宿舎の舎監をされていたので、二年まで寄宿生活をした私など、特にお世話になったり、御心配をおかけした文字通り先生の教え子の末席を汚していたものであった。

既に当時七十五歳の御老体、実は川開き見物になど「仰げば尊しわが師の恩」に報い奉る微意を表したのに、御快諾いただいたのは半ば喜び、半ば驚いたというのが本音であった。先生の方でもその後、奥様はじめ子供さん方の許可を得られる様々のいきさつもあって、多少もめたらしいが、結局九月二十六日、奥様御同伴でおいでになるということに決まった。

では杉山信二郎さんが幹事で、年一回くらい開いていたものだが、その後はどうした訳か忘れられていた。そこでとにかくと思いい、青陵高校の武田慎三郎さんに相談したら「是非やりましょう」ということで、私が幹事になって次のプランを立てた。

日時 九月二十六日(木)  
午後六時より  
場所 市内川端町六  
田中ホテル

案内状は次の方々に差し上げた。

ツセージをよせてこられた。旧新潟県立新潟中学校渋谷柿会諸君に寄す

近藤圓君山口国体に来場せられ、テレビでお姿を見、馳せてお姿を求めて得ず、数名の選手の人たちから、お人柄を聞き、御帰任後文通が始まり、種々の奇縁から川開きでも見物に来てはと後遺あり、それに間に合わず多少の躊躇もあつて遅れました。けれども昔知遇を得た諸君の厚志により、この秋訪新の機会を与えられ、幸い妻も



原田先生ご夫妻

とがあるが、思えば小生も岩田先生の人格に及びもないけれど、学校でも寄宿舎でも、それに近い様な思い出ばかりだ。大体大正十三年、慥か八月十日發令で着任したのだが、それも青山(筆者注、先生の母校青山学院)で同級だった石川駿君が先任で、しきりに新中へ来たらずと手紙をくれ、心配してくれ、とうとうもう数ヶ月で卒業の処を在京だった先生方にお別れし、考えもある人なら新潟地方の地理歴史位はその夏休中に少しでも読んだり、深ったりしていたことだつたら、その歴史に哺育されて来ている人たちの教育に、ただ若干の知識だけでなく、多少の熟意を以て当ることもできたらうにと悔まれる。

昭和四十九年九月十七日朝  
山口市白石2-17-21  
原田三二  
出席者は種々の都合で結局、永井、川村、武田、大島、内田、富所、杉本、皆川、私と九名であつた。先生御夫妻のお宿も田中ホテル(社長田中松氏)38回への好意で方代橋信濃川を一望の下に眺められる一番いい部屋をとつてもらう)なので、恩師御夫妻を囲んでの渋谷会は夜のふけるのも忘れる程にはずんだ。

先生は御在職当時は「坊っちゃん」というあだ名の通り坊っちゃん坊っちゃんとした青年教師だったのだが、頭に白髪、いさか腰の辺のまがりをみせた好々爺ぶりをみて、一同これがあの坊っちゃんか自分の齢も忘れて歳月の魔術におどろかされたようであつた。先生の御感慨も又同じだったらしい。これがあの渋谷舎監長退治の発頭人永井君か、そして新潟大学人文学部教授にまでなつたとは。そう言えばあの頃からみどころのある生徒と思つていた……。

第二日目は田中ホテルを辞し、弥彦スカイライン、神社参拝、新発田に出て清水園、市鳴鶴、瓢湖を廻つて村杉温泉あらせいに一泊、一応目的を達せられ、満足されて無事帰国されたが、私も御招きした責任も果し、ほつとしたことであつた。

(株)ピロイ白蟻研究所常務取締役

# 鈴木 要先生を

## 想 心

昨年十月十四日の夜、三十九会  
同期の岡田正雄君（内科医）から  
電話があつて、鈴木先生の御逝去  
を知つた。

岡田君も前に患者であつた後輩  
の人から知らせをうけたので、葬  
儀場の道順がハッキリしないが、  
十三日に死亡され、御葬儀は明後  
十月十五日、三鷹市下連雀の葬儀  
場で午盾、時三時とのこと。

取り敢えず在京の小和田岩夫君  
に都合があつたらうと二十九会として  
出席してくれるように電話して、  
御弔電と御香典を翌十四日にお送  
りした。

鈴木要先生、ガニ先生、我々三  
十九回卒には最も御因縁の深い旧  
師の御一人である。

それは我々同期のきかん坊が入  
学した昭和二年の春に、新中に歴  
史の教諭として教壇に立たれ、爾  
来学年担任として、昭和七年春卒  
業まで教育、御指導を頂いたから  
である。

先生は長野県人、明治二十八年  
生まれ、松本中学卒業後、早稲田  
の政経予科に入學されたが、家の  
都合により中退、以来苦学力行  
小学校教員として奉職されながら  
努力され、大正十五年十二月検定  
により歴史科の中学校教育免許を

新潟へ。駅から田んぼ道を歩き、  
曇り空のうす寒むい土境に出て、  
草むらさガサガサ時計さし、さ  
てそこで肝心の腕時計が見つかつ  
たのか、無かつたのかハッキリし  
ない。その辺の記憶が消えている  
が、帰宅してオヤジに大目玉とい  
うことも無かつたようだから、多  
分見つかつたのだらう。

次の汽車時間までの間を先生の  
配慮で、附近にある荻川小学校の  
宿直室に休ませて貰つた。寒い日  
だったので、炉の火が有難かつた。  
昭和十九年三月、先生は十七年  
間の新潟中学教員を依願退職され、  
第一の人生、大光相互に勤務され  
た。地元新潟でもお元氣な仕事ぶ  
りだつたが、次いで同行の川口支  
店長として、新規発展の業績をあ  
げられ、異色ある方向転進であり、  
常に元氣一杯に生きていられた。

昭和四十六年十月三日、三十九  
会が市内の長崎山真宗寺で、物故  
同期友人の法要を営むにあたり、  
鈴木先生をお招きしたが、先生は  
お達者の姿を見せられ、先年、こ  
れも逝かれた藤沢モズ先生と同席、  
一席の回顧談をのべられ、我々の  
さ、やかな宴を楽しんで居られた。

一昨年の夏、「香港」での同窓  
会にお会いした際には、御健康の  
すぐれない御様子がよく知られた。  
人生の後半を大光相互に勤務さ  
れた先生も、恐らくは昭和二年よ  
り十七年間の新潟中学での教員生  
活が何感懐い深いものではなかつ  
たらうか。長野県人としての特質  
か、先生は気性の激しい人であり、  
時々我々きかん坊共を大声をは

り上げてどなられた。後輩諸君に  
もいろいろと想い出のあることと  
推察致します。  
故鈴木要先生の御冥福と御遺族

### 44期のつどい

### 師弟共に若がる

### 壮年のつどい

御多幸を祈ります。  
要岳院銀鬚温順居士 合掌  
(三十九回 福田健記)

あとは全部出席して下さいました。  
有難うございましたと、紙面を  
かりて御礼申し上げます。菅原天  
神、武田坊ちゃん、鷺尾生虫、渡  
部先生、の四恩師の出席を得て、  
十一月七日夕、シルバードリン  
場、ミーティングルームは旧制新潟  
中学校々々、その他部歌で騒然と  
したのです。

卒業以来三十七年でした。一九  
三七年卒で、三十七年経過したの  
が一九七四年です。

当然ながらハゲあり、白髪あり  
様々です。併し昔の特徴を夫々残  
した。曾ての紅顔の美少年の間で  
は一夕では語りつくせない、思い  
出があります。

旧師の昔の学校時代の逸話など  
まことに興味深々、戦争で生き延  
びて今日会える同期の桜のサバサ  
バした面々、苦勞の後の達人の風  
格を具えて居ります。

新田見一彦と笹川隆三は来春の  
市議選に出るらしい。

四十五期で一年後輩の川上喜八  
郎は新潟市長選で、大先輩に挑戦  
すると云う時代の流れを感じさせ  
て、画期的イベントもあると予想  
して、特別出演を田中幹事が演出  
したり、

雪国の夜はしんとふけるも、  
新中で学んだ（いやカンニング専  
門も居つたが、それもその道の専  
門を学ばねば出来ぬこと）昔の仲

間の友情の情熱を冷やすことは出  
来なかつた。  
同夜四十五期は保盛軒で盛大な  
川上や笹川の出席祝いをやつたら  
しい。

各期夫々機会ある都度集まり七  
月の同窓会で交流交歓を心ゆく迄  
やるうではありませんか。  
同窓会員諸氏殿  
(幹事 田中勝治)





# 48期会 年次例会顛末一件

## 48回 本間健四郎

昨年(昭和四十八年)十一月例会で提案、議決された事は、我々の在学期間とその御在任期間が殆んど一致し、新中が最初の赴任校でもあり、しかも離任後三十五年間一度も新潟市を見ていないはずで、今何処にお住まいなのかかわからない仲野正之先生(地歴担当)を何とか探し出して、四十九年の例会には是非共お招き申し上げようということであった。

過去数十年來仲野先生にお目にかかりたいと云う、吾々の念願が山口(信田村)謙(本間(正)の特捜班の半年間のリレー作業によって見事成功、遂に本間(正)君が大学卒業名簿より、先生が淡路島の三原高校に御在勤、出身地の生家にご在住という事迄判明した。大塚君の度々にわたる電話や手紙の往復の結果、十月十二日、湯沢温泉湯沢東映ホテルで、新潟・東京両方の四十八期生の出席を募って、茲に始めて宿泊付の、人数も我々の期としては最高に近い三十名の出席者を得て、盛大に例会が行われた。



中野先生が秘かに胸中涙し、(中野先生が宴中不図お目を拭う姿の目撃者も

あったとか)全員本企画の成功を喜んでくれた事は、幹事一同何よりの働き甲斐を感じさせて貰った一夕であった。

事の次第を時間を追って再録すれば、十二日八時五十四分、新潟駅頭に夜行列車で御到着の仲野先生を、大塚進、大塚本間(正)本間(健)の四名が迎え、大塚君の乗用車で、全面改装で当時の姿を

のままでは見られずとも、何はともあれ母校(御案内し、本間(正)君の先導で、當時を想起して回想の一刻を過ぎて頂き、その後旭町界隈の旧居附近を古い知人の消息を聞き出す為五、六軒訪問した挙句、遂に元宿先の御家族方が現在仲野先生の現住所にほど近い池田市に御在任の事を突き止められた。先生の一途な御熱心と粘り強さに改めて感服させられたりした後、水道局の日本海タワー上で新潟市街を一望、当地の変り様を概観して頂き、中食後、そのまま大塚君の運転する車で、大塚、本間幹事がお伴して湯沢迄、秋の爽気の中を快適にドライブを続け、十六時半、会場東映ホテルに到着。三々伍々先着した諸君と久闊を叙したりするうちに定刻となり、本間(健)君の開会の辞に始まり、大塚君の司会の下に、大塚君の経過報告と同窓会より頂戴した清酒代の披露があり、田村君の東京在任者近況報告に引き続いて、仲野先生から三十五年振りのお話を承った後、代表幹事大塚君から先生への記念品贈呈があり、インドネシアに海外雄飛活動中の古屋君が偶々帰国中飛び入り出席を頂いたので、彼の首領を煩わして一同乾杯の後、賑やかな酒宴に入った。宴に入ってから座席の順を追って、一人一人の近況と感想のスピーチをお願いし、出る話題の殆んどが、子供の結婚相手の情報提供の依頼やら孫の自慢話で、今更の様に五十才の年令を自覚させられたが、要果てる前に声

昭和48年度青山同窓会収支決算書 (自昭和48年4月1日～至昭和49年3月31日)

収入の部	科目	決算額	備考
収入の部	繰越金	87,338	前年度繰越金
	入会金	462,900	会日割生徒 1人 300円×1,339人=401,700円 通信制卒業生 1人 900円× 68人 = 61,200円
	会費	1,010,000	同窓生会費 1口 500円 2,020口分
	雑収入	5,721	預金利子
	合計	1,565,959	

昭和49年度青山同窓会収支予算書 (自昭和49年4月1日～至昭和50年3月31日)

収入の部	科目	予算額	備考
収入の部	繰越金	112,597	前年度繰越金
	入会金	500,000	会日割生徒 1人 400円×450人=180,000円 通信制卒業生 1人 1,000円×450人=270,000円 通信制卒業生 1人 1,000円×50人 = 50,000円
	会費	1,000,000	同窓生会費 1口 1,000円 1,000口分
	雑収入	2,000	預金利子
	合計	1,614,597	

支出の部

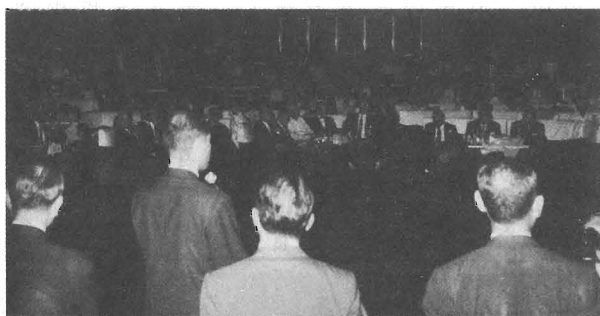
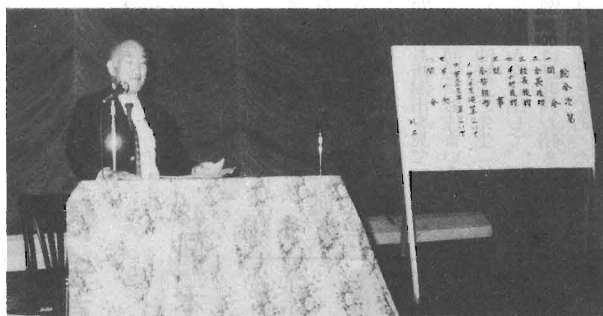
科目	決算額	備考
人件費	515,700	職員1人給料手当
通信費	173,005	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替料負担金
印刷費	26,800	予算、決算、案内状印刷代
図書費	30,520	会員用電報料、離任職員別別
退職手当積立金	70,000	
雑費	13,997	
会報印刷費	251,500	年2回発行会報印刷代
会議費	169,590	総会、新年会、役員会、会議費、クラス会寄贈酒料、東京総会、支部総会出席会費及び旅費
卒業生記念品代	137,250	
青陵祭補助	64,000	
通信制青山同窓会補助	0	
予備費	1,000	県高校同窓会長懇談会年会費
合計	1,453,382	

支出の部

科目	予算額	備考
人件費	600,000	職員1人給料手当
通信費	200,000	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替料負担金
印刷費	50,000	封筒、振替用紙、案内状等印刷代
図書費	30,000	会員用電報料、香華料、離任職員別別
退職手当積立金	80,000	
雑費	19,597	
会報印刷費	270,000	年2回発行会報印刷代
会議費	160,000	総会、新年会、役員会、会議費、クラス会寄贈酒料、東京総会、支部総会出席会費及び旅費
卒業生記念品代	130,000	
青陵祭補助	65,000	
通信制青山同窓会補助	0	
予備費	10,000	
合計	1,614,597	

収支差引残高 112,597円(次年度繰越)  
上記の通り相違ないことを確認致します。  
昭和49年5月14日 監事 福山 健 ④ 沢山 敏 ④

を描いて、あの頃の校歌、応援歌、敗戦歌送飛び出したりで、張り上げた歌声のおかげで酒気も翌日に持ち越さず、酒量の割りには翌朝全員爽快であったとは何よりの功德であった。残り惜しい秋の夜長もアツと云う間に経過して、ホテル側にも御迷惑と、二十三時五十分(皓太)君の手締めで宴を結び、後は温泉に、マージャンに、思い出話に、三々伍々思いの儘に夜を過ぎて当日は終った。翌十三日は八時朝食後、先生と一同の健勝を祈って万歳交換のあと夫々西に東に袂を分たねばならぬ現実の生活が待っている事は止むを得ぬ次第であった。十時二十六分東京へ向う特急と、きで御出発の仲野先生湯沢駅頭にお見送り申し上げた後、散会した。三十五年振りには仲野先生にお会して、真に楽しく感無量であり、改めて先生のご健康とご多幸をお祈りする次第である。  
出席者 仲野先生、山口(大阪より)戸桐、高松、田村、古屋以上東京より)戸川、大谷、倉島、山崎、安齋、大野、望月、阿部(慶)諏訪、渡辺、銀、渡辺(欣)田辺、中川、水戸、五十嵐、錫村、伊藤(正)、楠、小川、真島、佐々木、大塚、大塚、本間(健) 以上



昭和49年度総会スナップ (2) 1974. 7. 14 於 香港





昭和49年度青山同窓会費納入者 (4月より12月まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名
7 山内小斎斎倉羽鍵小川野若吉	7 松武井達夫	7 磯野英男	7 沢須山	7 山良	7 黒川武郎	7 小林正	7 高島	7 藤久	7 佐川久
10 保内柳13回	10 藤瀨伊	10 植川小	10 須須相	10 藤木馬	10 桑小桜	10 藤喜平	10 高橋中	10 藤藤	10 久藤藤
13 義臣	13 瀨藤高	13 川池林	13 相田武	13 馬田慎	13 小桜鈴	13 藤雅一	13 島正	13 藤藤	13 藤藤
16 回正修	16 桐橋村	16 野賢亮	16 寺中丹	16 田村信	16 田卷永	16 中橋口	16 井部羽	16 藤藤	16 藤藤
19 下回	19 高木鶴	19 野賢亮	19 野中丹	19 路信信	19 永末幸	19 藤新	19 野番	19 藤藤	19 藤藤
20 富清一	20 中西山	20 高橋真	20 古保	20 倉邦	20 馬場元	19 藤新	19 番希	19 藤藤	19 藤藤
21 回	21 添宮英	21 高橋真	21 渡山吉	21 名榮一	21 増武村	21 藤新	21 丸八	21 藤藤	21 藤藤
22 回	22 添宮英	22 高橋真	22 渡山吉	22 名榮一	22 増武村	22 藤新	22 丸八	22 藤藤	22 藤藤
23 回	23 添宮英	23 高橋真	23 渡山吉	23 名榮一	23 増武村	23 藤新	23 丸八	23 藤藤	23 藤藤
24 回	24 添宮英	24 高橋真	24 渡山吉	24 名榮一	24 増武村	24 藤新	24 丸八	24 藤藤	24 藤藤
25 回	25 添宮英	25 高橋真	25 渡山吉	25 名榮一	25 増武村	25 藤新	25 丸八	25 藤藤	25 藤藤
26 回	26 添宮英	26 高橋真	26 渡山吉	26 名榮一	26 増武村	26 藤新	26 丸八	26 藤藤	26 藤藤
27 回	27 添宮英	27 高橋真	27 渡山吉	27 名榮一	27 増武村	27 藤新	27 丸八	27 藤藤	27 藤藤
28 回	28 添宮英	28 高橋真	28 渡山吉	28 名榮一	28 増武村	28 藤新	28 丸八	28 藤藤	28 藤藤
29 回	29 添宮英	29 高橋真	29 渡山吉	29 名榮一	29 増武村	29 藤新	29 丸八	29 藤藤	29 藤藤
30 回	30 添宮英	30 高橋真	30 渡山吉	30 名榮一	30 増武村	30 藤新	30 丸八	30 藤藤	30 藤藤
31 回	31 添宮英	31 高橋真	31 渡山吉	31 名榮一	31 増武村	31 藤新	31 丸八	31 藤藤	31 藤藤
32 回	32 添宮英	32 高橋真	32 渡山吉	32 名榮一	32 増武村	32 藤新	32 丸八	32 藤藤	32 藤藤
33 回	33 添宮英	33 高橋真	33 渡山吉	33 名榮一	33 増武村	33 藤新	33 丸八	33 藤藤	33 藤藤
34 回	34 添宮英	34 高橋真	34 渡山吉	34 名榮一	34 増武村	34 藤新	34 丸八	34 藤藤	34 藤藤
35 回	35 添宮英	35 高橋真	35 渡山吉	35 名榮一	35 増武村	35 藤新	35 丸八	35 藤藤	35 藤藤
36 回	36 添宮英	36 高橋真	36 渡山吉	36 名榮一	36 増武村	36 藤新	36 丸八	36 藤藤	36 藤藤
37 回	37 添宮英	37 高橋真	37 渡山吉	37 名榮一	37 増武村	37 藤新	37 丸八	37 藤藤	37 藤藤
38 回	38 添宮英	38 高橋真	38 渡山吉	38 名榮一	38 増武村	38 藤新	38 丸八	38 藤藤	38 藤藤
39 回	39 添宮英	39 高橋真	39 渡山吉	39 名榮一	39 増武村	39 藤新	39 丸八	39 藤藤	39 藤藤
40 回	40 添宮英	40 高橋真	40 渡山吉	40 名榮一	40 増武村	40 藤新	40 丸八	40 藤藤	40 藤藤
41 回	41 添宮英	41 高橋真	41 渡山吉	41 名榮一	41 増武村	41 藤新	41 丸八	41 藤藤	41 藤藤
42 回	42 添宮英	42 高橋真	42 渡山吉	42 名榮一	42 増武村	42 藤新	42 丸八	42 藤藤	42 藤藤
43 回	43 添宮英	43 高橋真	43 渡山吉	43 名榮一	43 増武村	43 藤新	43 丸八	43 藤藤	43 藤藤
44 回	44 添宮英	44 高橋真	44 渡山吉	44 名榮一	44 増武村	44 藤新	44 丸八	44 藤藤	44 藤藤
45 回	45 添宮英	45 高橋真	45 渡山吉	45 名榮一	45 増武村	45 藤新	45 丸八	45 藤藤	45 藤藤
46 回	46 添宮英	46 高橋真	46 渡山吉	46 名榮一	46 増武村	46 藤新	46 丸八	46 藤藤	46 藤藤
47 回	47 添宮英	47 高橋真	47 渡山吉	47 名榮一	47 増武村	47 藤新	47 丸八	47 藤藤	47 藤藤
48 回	48 添宮英	48 高橋真	48 渡山吉	48 名榮一	48 増武村	48 藤新	48 丸八	48 藤藤	48 藤藤
49 回	49 添宮英	49 高橋真	49 渡山吉	49 名榮一	49 増武村	49 藤新	49 丸八	49 藤藤	49 藤藤
50 回	50 添宮英	50 高橋真	50 渡山吉	50 名榮一	50 増武村	50 藤新	50 丸八	50 藤藤	50 藤藤